

6 長崎大学生生活協同組合との連携

学内全面禁煙の取組について

大学校内の禁煙宣言に運動し、生協は、タバコの自動販売機を撤去し、生協食堂周辺からの、灰皿の撤去に協力した。

平成18年7月27日

事務局各部の長

部局の長

学内共同教育研究施設等の長 殿

学 長（公印省略）

大学構内禁煙について（通知）

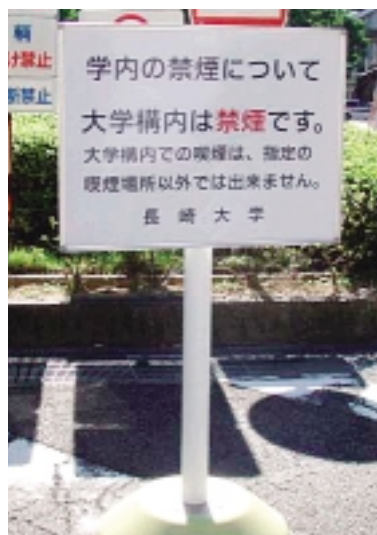
本学では、従前から各部局単位で建物内を全面禁煙としたり、建物内外に喫煙場所を指定し、指定喫煙場所以外は禁煙とするなど、受動喫煙防止に努めているところです。

また、学生に対しては、入学式のオリエンテーションや生活指導誌の「ばってんライフ」等で、歩行喫煙の禁止等を周知しているところです。

しかしながら、現実には構内での歩行喫煙は見受けられますし、たばこのポイ捨てにより構内環境が見苦しい所も散見されます。

このような状況に鑑み、今回、大学として、大学構内を原則禁煙とし、指定の場所以外での喫煙を禁止することを決定しましたので、お知らせします。

つきましては、このことについて貴部局の学生及び教職員に周知徹底していただくとともに、改めて指定している喫煙場所の数・位置等が適切かどうかを見直していただくようお願いします。





《ISO14001認証取得》

長崎大学生協同組合は、2004年 1月28日に ISO14001 認証取得をいたしました。大学生協らしい環境負荷削減を目指して活動しています。2006年12月には取得 3年目の更新審査があり、3年間の活動が評価されました。

《環境方針》

長崎大学生協は、組合員の意志によって作られました。長崎大学生協の役割は、協同互助の精神に基づき民主的運営により組合員の生活の文化的経済的改善向上を図ることを目的としています。

環境保全活動が商品、サービス、及びすべての活動の基礎的な取り組みであると認識し、可能な範囲において、目的・目標を設定し、見直す枠組みを与え、環境保全活動を以下のとおり、継続的改善と汚染の予防を推進します。

- (1)環境関連の法規制、条例、その他受け入れを決めた要求事項を遵守します。
- (2)長崎大学生協文教キャンパス施設において、電気、ガス、紙、水の使用料削減、廃棄物の削減、リサイクル活動をすすめます。
- (3)環境保全活動を推進するため、環境マネジメント推進組織を整備し、全職員が活動できるようにします。
- (4)内部環境監査を実施し、自主管理による環境マネジメントシステムの維持向上に努めます。
- (5)環境教育、内外の公表を行い、全職員の環境方針の理解と環境に関する意識の向上を図ります。

= = 環境方針はパンフレットなどを作成し、長崎大学生協内外に広く公表します。 = =

2005年10月17日

長崎大学生協同組合 専務理事 山下 毅

《環境目標》

(環境マネジメントプログラムより)

1. 電力の使用量削減

- (1)照明器具の適切な管理による節電
- (2)エアコンの温度管理による節電
- (3)コピー機やパソコンの適切な管理による節電
- (4)手順書に基づいて運用管理

2. ガスの使用量削減

- (1)エアコンの適切な管理による削減
- (2)エアコンの温度管理による削減

3. 水の使用料削減

- (1)手順書に基づいた運用管理

4. 生ゴミ廃棄の削減

- (1)手順書に基づいた運用管理

5. 弁当容器のリサイクル率アップ

- (1)リサイクルの組合員への広報
- (2)内部作業として売れ残り弁当容器のリサイクル
- (3)より効果的な回収方法の検討と実施

《2006年度の取り組み状況》

1. 電力の使用量削減

文教キャンパスの生協施設の電気使用量を削減し、環境負荷の軽減と同時に施設のコスト抑制に貢献することを目的に、取り組んでいます。

照明、コピー機、パソコン、エアコンの適切な管理により、2006年度は2005年度の1%の削減を目標にしていました。

環境管理委員会で確認しているプログラムでは是正処置までは行わない許容範囲内ではありますが、今後の取り組み方について議論が必要な状況です。

2. ガスの利用量削減

文教キャンパスの生協施設のガス使用量を削減し、環境負荷の軽減と同時に施設のコスト抑制に貢献することを目的に、取り組んでいます。

エアコンの適切な管理により、2006年度は2005年度の1%削減を目標にしていました。

目標値に対して5.6%の削減を達成しました。

3. 水の使用量削減

文教食堂で使用する水の使用量の削減に2006年度から新たに取り組み始めました。

2006年度は2005年度の2%削減を目指すことで取り組みました。

使用量については大学からの報告を基にデータ作成します。

06年の1月と7月の使用量について例年のデータとも比較しても信用性がもてない数値であるため、06年度はデータ収集とし07年度から比較できるようなプログラムを作成する予定です。

4. 生ゴミ廃棄の削減

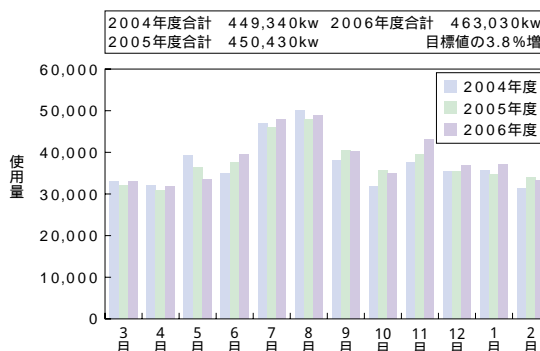
文教食堂は生ゴミ廃棄量が年間100トン未満であり、食品リサイクル法の適用は受けませんが、自主的に生ゴミ削減の取り組みを開始しました。

2006年度はこれまでのデータが無いいため削減のための運用を行いながら、データの把握を行っています。

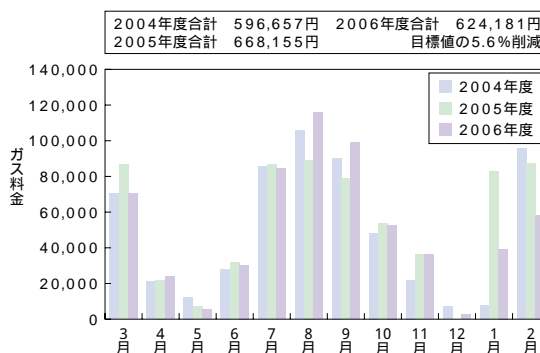
残滓が少なくなるようなメニューの提供カット野菜の利用促進。

効率的な食材管理等

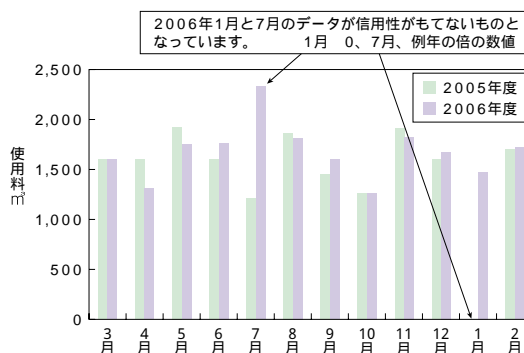
電気使用量 (Kw)



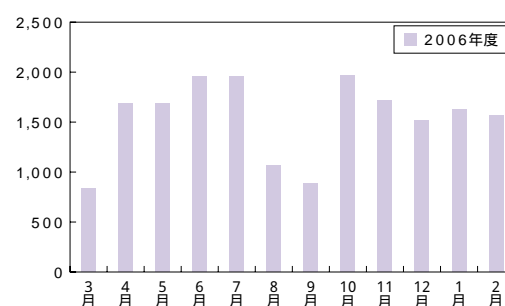
ガス料金 (円)



文教食堂水の使用料 (m³)



生ゴミ廃棄量 (kg)



5. 弁当容器のリサイクル

生協オリジナル弁当の容器を回収し、別用途での再利用を図ることにより、ゴミの量を軽減することを目的に取り組んでいます。

2004年度は回収方法・再利用方法を調査・検討する段階を目標としてスタートし、2005年1月より、丼類の弁当容器の回収を開始しました。05年3月～06年2月の回収状況は累計で回収率28%でした。

2006年度3月より生協オリジナル弁当の全品目へ拡大し、また九州事業連合に加入する全ての大学生協での取り組みに広がりました。

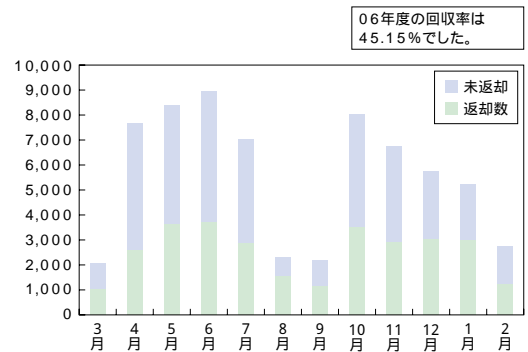
回収率は40%台で前後しており、新たな取り組みが必要な状況です。

6. その他

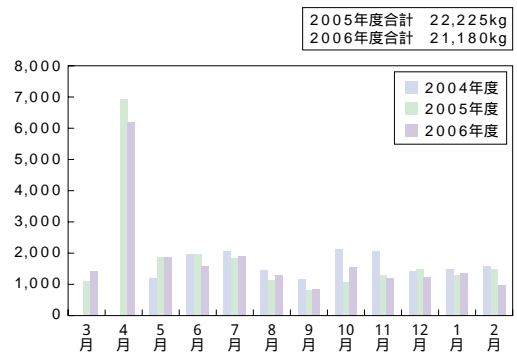
環境プログラムとして設定していませんが、ダンボール回収・再利用（全体）コピー用紙利用削減（文教食堂）も引き続きデータを取りながら活動しています。

その他、カップ自販機紙カップのデポジットによる回収やペットボトル回収の取り組みをおこなっています。

デポジット弁当容器回収（個）



段ボール回収量（kg）



文教食堂コピー使用量（枚）

